

英国放送メディアにおける多様性に向けた取り組み - 放送における性的少数者の取り扱い - Act to diversity in British broadcasting media -In relation to sexual minority-

◎山本 雄美¹
Katsuyoshi YAMAMOTO

¹福岡大学大学院法学研究科 Graduate School of Law, Fukuoka University

要旨…本研究では、英国の放送メディアにおいて、いわゆる「性的マイノリティ」が番組内でのように扱われているかを明らかにし、その特徴および問題点を指摘した。公共放送であるBBCにおいても、また、その他の放送局でも、そうした描写においては「ジャンルの偏り」、「ステレオタイプに基づいた描写」、「性的マイノリティのなかでの描写の偏重」、そして「感受のギャップ」が認められることがわかった。その要因の1つとしては、番組制作者が性的マイノリティの実相を認識し得ていないことがあり、この点を補足するためには放送局内における性的マイノリティのスタッフの割合を増加させることが有用である。

キーワード 性的マイノリティ、メディア表象、英国、ヘテロ型規範

1. はじめに

(1) 研究の背景および研究目的

2018年4月より福岡市では、性的マイノリティ (Sexual Minority: 以下SMと表記) を対象とした「パートナーシップ宣誓制度」が導入された。この制度により、例えば従来では認められていなかった、SMのカップルによる市営住宅への入居が可能になるなど、企業や地方自治体を中心として、「多様性」に向けた社会の取り組みが加速している。一方で、2017年には、民放のパラエティ番組でSMをネタにした企画が放送され、視聴者から批判が寄せられた。これを受け、放送局側は「LGBT等を取りまく制度改正や社会状況について私共の認識が極めて不十分であった」「多様性のある社会の実現のために正しい知識を身に付けたい」などと述べ正式に謝罪した。いわば、社会の多様化にテレビ局の側が適応できていない状況を示している。

翻って、「LGBT先進国」などと称される英国では、テレビなどの放送メディアでSMはどのように表象されているのだろうか。本研究では、こうした問題意識を背景に、英国の放送メディアにおいて、SMがどのように扱われているかを明らかにし、その特徴および問題点を指摘することを目的とする。マルチ・メディア化が進む現代においても、テレビ (特に地上波) が人々に与える影響は大きい。また、社会においてSMなどの包摂を進めるうえで、「偏見」や「先入観」の克服が最大の課題となっている。そのため、今後SMの権利拡大を促進するなかで、テレビがSMにとって有益な役割を果たすため、そして「誤った」価値観を与えないためにも、SMとテレビの関係を整理し、今後の課題を指摘する必要があると考えた。

(2) 研究対象および方法

本研究では、①BBC (公共放送)、②ITV (商業放送)、③チャンネル4 (公共テレビ局、以下C4) の各放送局に加え、放送・通信などの規制機関である④Ofcomを分析対象にした。それぞれで用いた資料および分析方法について項目ごとに以下に示す。

①BBC

(1) Stonewallが2005年に実施した調査 (「LとGの人々に関するBBCの描写」調査、以下「調査2005」)、(2) BBCが2009年から翌10年にかけて実施した調査 (「BBCにおけるL、G、Bの人たちの描写」調査、以下「調査2010」)、そして(3) 調査2010を補足する

¹ 性的マイノリティについては、一般的にマス・メディアなどで使用される LGBTのほかにも、FM (: 体の性は「女性」で心の性が「男性」) やMX (体の性が「男性」で性自認についてはXジェンダー)、さらには「性別」にとらわれない「アセクシュアル」などもあり、多岐にわたっている。なお、本稿では便宜上、レズビアンをL、ゲイをG、バイセクシュアルをB、トランスジェンダーをTとそれぞれ表記する。

ために実施された調査（「BBCにおけるL、G、Bの人たちの描写」調査・最新版、以下「調査2012」）を分析対象とする。これら3つの調査結果を用いて、BBCにおけるSMの表象の実態と課題、人々の反応を分析する。

②IV

BBCとIVの大きな違いは「広告」の有無である。ここでは、広告一般におけるSMの表象の特徴を明確に示す。

③C4

C4では若者をターゲットに、IVより「公共性」の高いコンテンツが放送されている。ここではまず、（特に多様性に関する）放送上のガイドラインを参照し、何を、どのように表象すべきとされているかを確認する。そのうえで、人気シリーズ番組『Big Brother』と『Celebrity Big Brother』（それぞれ、以下BBとCBBと表記）を基に、ガイドラインで示された事項が実際に実行されているか否かを示す。

④Ofcom

①Ofcomが2017年2月から3月にかけて実施した調査（以下、調査2017a）、および同年4月から5月にかけて実施した調査（以下、調査2017b）をそれぞれ参照する。これらの調査結果を分析することで、規制機関が抱くSMに対する意識を明白にする。加えて、Ofcomは規制機関であると同時に、「2010年平等法」の規定により、公共事業体として多様性の実現に向けた「義務」を負っている。そこで、Ofcomの組織内部における多様性に向けた取り組みについても、2011年に策定された計画案を手がかりに考察する。

2. BBC

本章では、調査2005、調査2010、そして調査2012の結果を基に、①BBCのコンテンツにおけるSMの表象の現状、②視聴者がそうしたSMの表象に対して抱いている感覚、および③調査の結果得られた今後の課題について明らかにする。

(1)調査2005

まず、調査2005から、BBCにおけるSMの人々に関する描写が少なく、それらの描写もコメディ、トーク番組、クイズ番組などの「娯楽番組」に集中しているという、SMの描写における「ジャンルの偏り」が挙げられる。娯楽番組は、観察対象となった全番組のうち14%に過ぎなかったが、SMが描写された番組の72%は娯楽番組だった。次に、BBCはGを、「なよなよした滑稽な人物（camp figures of fun）」として、または受信許可料を支払っているGたちの生活を体現し、彼らの関心に応えるというよりも、ソープオペラやドラマに衝撃的な価値を加えるために用いているという「ステレオタイプに基づいた描写」が指摘されている。さらに、LがGに比べてあまり描写されない傾向にあるという「SMのなかでの格差」が存在する。例えば調査対象となったドラマ番組において、LやBの女性が登場することはなかった。

また、Gの問題を取り上げた番組はBBCの番組全体の04%しかなく、そのうち約8割は、ネガティブで、非現実的で、ステレオタイプに基づいているか、ホモフォビック（同性愛者嫌悪的）なものであった。こうした現状を踏まえ、StonewallはBBCに対して次の8つの提言（recommendations）を行った。

1. 人種および障がい者に関するBBCの方針と実践を性的指向に関するものにも反映させるように取り組むこと
2. テレビとラジオの番組に特有の、程度の低いホモフォビアに対処するための緊急措置をとること
3. Gの人々を番組内で扱う際、その内容がセンセーショナルに取り上げられるよりも、自然体で現実的であることを保証するように取り組むこと
4. BBC OneとBBC Twoのドラマおよびソープオペラで、成熟したLとGのキャラクターを包括することに取り組むこと
5. ニュースおよび時事問題に関する番組において、バランスの取れた、そして扇動的でないG問題の報道を追求すること
6. クイズ番組においてLとGのキャラクターを6%含むように取り組むこと
7. BBCの番組におけるGの人々の描写に関する認識および経験に関して、LとGの受信許可料支払者とコミュニケーションを取り、相談することを始めること
8. LとGの受信許可料支払者に対して、「金額に見合った価値」の提供に取り組むこと

調査2005の結果に対してBBCは、調査では午後7時から同10時という狭い時間帯にのみ焦点が当てられており、ほぼすべてのニュースおよび時事問題を扱う番組が除外されていると主張した。また、「Gの男性とLたちは、当然、全員がBBCの番組から利益を得ている」と述べた。では、Stonewallによるこれらの提言は、BBCのその後のSMの表象に何らかの影響をもたらしたのだろうか。

(2)調査2010

本調査では、BBCおよび放送メディア一般におけるSMの描写を視聴者がどのように知覚しているかを明らかにするため、そして不十分な点をBBCが必要に応じて改善する方法を明らかにするために、質的調査と量的調査の2つの調査が行われた。

両調査の結果から、次の諸点が挙げられる。①SMの描写は、視聴者自身の感情的な反応と同様に、他者に対する影響に化して評価される；②SMの人々の描写を解釈するための文脈は、社会的、個人的、編集的な要因によって形成される；③英国に住んでいる人たちの多数派は、SMの人々の描写について「満足している」か、「特に関心がない」かのいずれかである；④SMの人々は、放送メディアにおけるSMの描写を重要視している；⑤SMの人々は、SMの描写の量が十分ではないと感じている；⑥Lの女性はとくに描写される機会が少ない；⑦SMのどのカテゴリーに属するかという点以上に、「カミングアウト」のどの段階にいるのかが、SMの描写の受容に対して強く影響する；⑧SMの人々はより多様性のある描写を求めている；⑨Hの人々はSMの人々ほど強くSMに関する描写を求めている；⑩Hの人々はSMの描写の量について大半が意識していない；⑪SMの描写が「多い」と感じているHの人々は、男性そして年配者が多い；⑫Hの人々の約半数がSMの描写に満足している；⑬HがSMの描写に満足するか否かは、SMのコミュニティに対する彼らの経験と知識に左右される；⑭SMの描写に満足していないHの人々は、SM同士の感情的・身体的な親密さ(intimacy)に焦点を当てたコンテンツを理解しがたい；⑮満足しているHの人々は、SMの人々よりもSMの描写に敏感である；⑯満足しているHの人々も、すべての描写に満足しているわけではなかった；⑰番組のジャンル、プラットフォーム、放送時間がそれぞれ、SMの描写の視聴者の認識の仕方に強く影響を与えた；⑱真正性(authenticity)がSMの描写に対する信頼および関与を促進する上で決定的な要素である；⑲付随的な描写、明白なもの、そしてSMの描写の目印となるようなモーメントはあらゆる視聴者にとって有用である；⑳多くの視聴者がユーモア性のあるSMの描写を求めている一方で、そうした描写におけるタブーは視聴者ごとに基準が異なる；㉑SMの人々はSMに関する描写における、「言葉」と「トーン」に非常に敏感である；㉒SMの人々は「カミングアウト」をしているタレントを求めているが、必ずしもSMの人々にカミングアウトを求めるものではない；㉓BBCのSMの描写は満足できるものではあるものの、さらに改善の余地はある；㉔SMの人々からみると、SMの描写に関してはBBCよりもC4のほうが先駆的といえる。

また、これらの結果を踏まえ、BBCは次の諸点を今後の課題点として提示している。それはすなわち、①SMの人々の多様性をより反映するための、BBCによってジャンル別に作られた編集上のコミットメント；②HとSMの人々の「世界」を統合すること；③SMの人々の完全かつ多様な日々の生活を公平に表現および反映するような偶発的なSMの描写、そしてSMの人々のさらなる描写を切望している人に対してあつらえられた明らかなそしてまたは重要なコンテンツのなかで、最もクリエイティブな機会をつくること；④SMの人々に焦点を当てた描写に注目すること、およびメディアやコミュニケーションを、そうした描写を裏付けるために活用すること。

(3) 調査 2012

以下、調査 2012 によって得られた結果の概要を示す。①約 40%の人々が、テレビが SM の内容を取り上げることを重要であると考えている；②テレビにおける SM の描写は、その他の個人的な特徴に関する描写よりもあまり重要ではないように思われる；③テレビにおける SM の描写が少ないと感じているのは全体の約 20%であるが、この割合は SM 当事者の間ではより上昇する；④Hの男性の多くは、テレビ上での SM (特に G) の報道が多すぎると述べる；⑤半数の人々が、放送メディアにおける SM の人々の描写に「満足」しているが、約 15%は満足しておらず、残りの人々はこの点につき意見を持っていなかった；⑥H層の中では、男性よりも女性のほうが、SM (特に G) の人々の描写に満足している傾向にある；⑦SM の人々の描写の量に関する見解は、どの放送局に対しても同様であった。全体的に、どの放送局でも、10%の人々が多すぎると答えて、残りは適切であると考えているか、意見を持っていないかのいずれかである。しかし SM の視聴者の半数は、どの放送局でも描写の量が少なすぎると感じている；⑧多くの人々は、各放送局が SM の人々と彼らの生活の取り上げ方について、「よい」または「どちらでもない」と評価している。「十分ではない」と回答した人は 10%に満たないが、SM の人々の間では 14 にまで上昇する。BBC および C4 は他の放送局よりも高く評価されている。

調査 2012 では、従前の調査で浮かび上がった 3 つの課題に加え、H と SM との間の「感受のギャップ」が強調されていた。こうした結果を踏まえ、BBC のワーキンググループは、3 つの行動指針 (recommended actions) を策定した。それは、①BBC は調査 2012 を基軸として、1 年後にパルス調査 (定点観測) を再び行う；②BBC は、定点的なコンテンツ分析などの他のあらゆる利用可能な調査による発見を、BBC における SM の人々の描写の量の改善に取り組むことを促すために必要とされるあらゆる行動を実践するために用いる；③BBC は、調査 2010 および調査 2012 から得られた発見を、特にコミッショナーおよび編集者に向ける、というものである。

(4) 小括

いずれの段階の調査においても、SM の描写の「ジャンルの偏り」、「ステレオタイプに基づいた描写」、「SM のなかでの描写の偏重」、さらに「感受のギャップ」が指摘された。一方で、BBC の執行部や番組制作者が SM についてどのように考え

ているのか、具体的にBBCの番組においてSMがどのように描写されているのかについて示されることはなかった。

3. ITV

ここでは、民間放送ITVにおけるSMの描写について考える。ただし、放送局により若干の程度の差はあるものの、BBCとITVの間でSMの描写について大きな違いは見られないことが調査2012で示されていた。そのため、ここではBBCとITVの違いを特徴づける大きな要素の一つである「広告」を通じて、ITVにおけるSM描写の現状と課題を明らかにする。

広告主はたいいていの場合、広告内で異性のカップルを用いることが多く、何か特別なコメントが加えられずにSMが描写されることは稀である。つまり、「SMであるということ」が単純に標準化または主張化されている広告はわずかしかなく、大部分が「高度に性対象化された倫理 (a hyper-sexualized ethic)」を通じて描写されている。特にLの女性がこのように性対象化された方法でしか広告において描写されない一方で、Gの男性は性対象として描写されることはめったになく、彼らは主として、スタイルの良さ、魅力的な外見、およびそのパターンを描写される。つまりは、広告においても「SMのなかでの描写の偏重」が認められる状況にある。

例えばAstrologyの広告のように、一部にはポジティブな広告も見受けられるものの、広告全体としては、SMが恐怖および憎悪の対象として描写されていることは明らかである。依然として多くの広告において視聴者は、ホモフォビアに基づく描写を見せられている。TとBの人々に関してはより状況は悪く、前者は往々にして、肉食動物、おかま、小児愛者として、後者はしばしば、二枚舌の詐欺師として描写されている。

4. Channel4

C4は2015年1月に「360° Diversity Charter」という多様性の向上を目的とした計画を公表した。そこでは、360°という名称どおり、多面的多角的に多様性の向上を助ける取り組みを行おうとする考え方が示されている。それは先入観への挑戦などを含む、アファーマティブな取り組みといえよう。ここでは、それらの取り組みのうち、SMが含まれる部分を取り上げる。計画のガイドラインでは、番組の種類に応じて、それぞれ具体的な取り組みや該当する番組が挙げられている。ここでは紙幅の都合によりそれらを詳細に示すことはできないが、大まかにいえば、内容および主題に関しては、「多様なコミュニティおよびバックグラウンドを反映すべき」であり、役割に関しては、「多様な範囲の声、見方、そして経験を反映すべき」とされている。本計画は2020年までに達成すべきものとされており、現在まさに進行中である。しかしながら、C4が2017年に公表した途中経過によると、従業員に占める障がい者、BAME、女性の割合はいずれも増加傾向にあるものの、SMの割合は計画公表時と比べて減少しているという。

では、こうしたC4の取り組みと実際の番組における表象との間には関連性が認められるのだろうか。BBおよびCBBに関するMichael Lovelockの研究を参照しつつこの点を論じよう。同シリーズを放送してきたC4などは、広くSMに関する表現の先駆者として考えられてきたと同時に、BBの出演者の多彩なアイデンティティが、番組における表象の多様性に対する放送局側のコミットメントの根拠とされてきた。つまり、BBにおいて、SMの参加者のありのままの姿が放送されることにより、彼らと「ヘテロ型規範」に基づいて知覚する視聴者との間にある、卓越した共通の「人間性」を共有することが可能となる。ここでいう「ヘテロ型規範」とは、「全員、または大多数の人々はストレイト（異性愛者）であるという文化的な期待」のことをいう。こうした理論は、すべての人間が男性または女性に分類され得るという「二項対立」の概念に依拠している。そのため、SMは、先天的に割り当てられたジェンダーに帰属する行動や性的な経験が、直感的な願望や自己の感覚と一致しない「ジェンダー離反」として理解される。多様な性の在り方を受け入れるという考え方は、21世紀の英国における中核的な「価値」として確立されてきたものの、依然として人々の感覚はヘテロ型規範に基づいて構成されている。SMであること自体は受容される素地ができつつあるものの、それはいまだに、ヘテロ型規範とは「異質なもの」でもある。

実際にBBシリーズは視聴者の関心が高く、人気番組ゆえに、視聴者の共感や批判を呼ぶことがあった。例えば、2000年に放送されたBB第1シリーズで、LであるAnna Nolanは、Big Brother Houseから出た際に恋人に抱きついたシーンが放送されたことにより、「Lのイメージを、ノーマルで、ユーモアのあり、知的で、謙虚なものに変えさせることになった」。Anna自身は「Lのロールモデルになろうという期待も、英国で最も有名なLになりたいという気もなかった」と述べるが、結果として多くの視聴者、とくにLの人たちを鼓舞することになった。一方で、批判を呼んだものとして、CBBの第13シリーズ（2014年）におけるEvander Holyfieldの発言がまずは挙げられよう。彼は、Gであることは「普通ではない」し、それは「修理されるもの」と述べた。彼の発言を受け、BBサイドは「BBは攻撃的な言葉の使用を許さないし、それゆえ、そうした見解を表明するこ

とが有する効果、および Big Brother House のなかでこれらの見解を繰り返すことによって生じ得る有害性と攻撃性についてよく考えるように君に警告する」と公式に警告した。しかしながら、Ofcom には視聴者からの苦情が 1 千件近く寄せられ、Ofcom が詳細を調査することにまで発展した。また、同第 17 シリーズ (2016 年) では、Winston McKenzie が、仮に自分が G と Big Brother House で共有生活を送らないといけない場合、「常に煉瓦の壁に背を向けて立つ」必要があると述べた。彼の発言に対して、Ofcom には約 350 件の苦情がもたらされた。彼が以前からホモフォビクな見解を表明していたにもかかわらず、制作サイドが彼をブッキングしたことに対する批判や、この番組を放送した Channel5 が、問題となった発言を含む部分を事前に編集できたにもかかわらず、これをそのまま放送したことに対する批判も起こった。この発言を放送したことで、Channel5 はホモフォビアを回避するのではなく、奨励したように認識されてしまった。同第 18 シリーズ (2016 年) では、B の Christopher Biggins が、「私は、B であることを恐れている」と述べたように、SM のなかでも、B に対する風当たりは強い。B は、「どちらか一方の側を選べ」や「自分自身に正直になれ」というような有害かつ痛ましい言葉を常にかけている。

特に 2011 年以降、C4 に代わり Channel5 が両シリーズを放送するようになって以降、番組内でホモフォビクな見解がしばしば流されるようになってきている。編集過程で防ぐことができるにもかかわらずこうした事態を引き起こした要因は、放送局のスタッフ自身がヘテロ型規範の論理に囚われていることにあるのではないだろうか。

5. Ofcom

Ofcom は、BBC や放送メディア全般についての調査の中で、SM に関連するものも行っている。まず、調査 2017a の調査の報告書から、SM について述べられている部分の概要を示す。BBC は T の問題を取り上げる番組を放送する等、コンテンツの多様性を向上させるための試みを積極的におこなっていた。ただし、調査に協力したある SM は、BBC に対して「ステレオタイプに依らず、ありのままの姿を描写してほしい」と考えていることを示唆している。調査 2017b で Ofcom は、BBC、C4、ITV、Sky、Viacom の 5 つの放送局に対して、ジェンダー、人種、障がいに関連するデータを提出させた。これまでに取り上げた調査とは異なり、放送局内における SM の状況を調査している点に本調査の特徴がある。まず、各放送局におけるスタッフの H および SM の割合をまとめると表 1 のようになっている。

【表 1】各放送局における SM の割合

	英国全体	BBC	ITV	C4	Sky	Viacom
H	94	59	61	84	n/a	17
SM	2	5	4	6	n/a	2
SM 率	208	781	6.15	6.66	n/a	10.52

この表では示していないものの、Ofcom が提出を求めたスタッフに関する情報の 51% が明らかとされていないという点は大きな問題がある。こうしたデータの欠落は SM に関するものに限られず、放送メディア内部における多様性を客観的に評価することを困難にしているという点で、Ofcom は各放送局におけるデータの欠落に強い懸念を示している。限られたデータではあるが、各領域における SM の割合を SM 率として示した。放送局により、母集団の数が異なるため単純に比較することはできないが、BBC および C4 には組織内に SM のスタッフが一定数存在する。こうした結果に対して Ofcom は「SM の従業員は BBC に 5% 程度いるものの、特定の役割を与えられている代表者になるとほぼ 2 倍の 9% にまでなる」と評価している。また、C4 についても、SM が 6% 余り存在することに対して、「素晴らしい」と高く評価している。しかしながら、放送局から提出されたデータが少なく、適切な分析が行えなかったこともあり、Ofcom は多様性の確保に向けた取り組みを示しているものの、性的指向に関連した部分については具体的には何も触れられていなかった。

Ofcom は規制機関として各放送局における多様性の向上および調査を行うと同時に、2010 年平等法の成立を受け、自身の組織内部における多様性の確保にも努めている。2010 年平等法の規定を受け、Ofcom はまず、2011 年 10 月に、「第 2 次単一平等計画 (second Single Equality Scheme)」を公表した。それによると同計画は、①組織のあらゆるレベルで多様な人材を擁すること、②業務の遂行に際して、すべての個人およびステークホルダーの様々なニーズならびに利害を考慮すること、③すべての人の寄与 (contribution) がその長所に基づいて評価される文化を創造することをその目的としている。これらの目的を達成するため、3 つの鍵となる領域から構成される「企業責任 (Corporate Responsibility)」を設定した。SM に関しては、「多様性と平等性」の枠組みのなかで論じられており、Ofcom の具体的な取り組みとしては、Ofcom 内部の SM の従業員によって構成されているネット

ワーク団体 Affinity Network が挙げられている。特に近年、Affinity Network は単なる社会団体であるという以上に、責任の増大に伴い、ますますその規模が大きくなっている。Affinity Network の企業サービス局長 (Director of Corporate Services) である Alison Crosland は、「もし従業員が仕事で最善を尽くすつもりであるならば、彼らは自分らしさを求める必要があり、それには、望むのであれば自身の性的指向や性自認についてオープンにすることが含まれる。Affinity Network は Ofcom にとって、われわれが性的多様性の価値を認め、SM の従業員を支持することを示す重要な手段であり、それによりすべての人が職場において真の自分であることができる」と述べる。

6. おわりに

BBC や C4 などでは、社会における「多様化」の流れに呼応して、SM を積極的に描写するに至っている。かつてに比べ、SM の描写の「量」は増加したものの、それらの「質」も同時に向上しているとはいえない。また、「性的マイノリティ」といっても、「体の性」「心の性」「恋愛対象の性」に従い多層的に構成されており、「アセクシュアル」のように「性別」というものを超越した考えも存在する。それらをいわば「第三者」の視点から表象することは困難であり、可能な限りその当事者の意見を反映させることが求められよう。そのためには放送局内における SM のスタッフの比率を高めることが肝要である。

参考文献

【史料】(いずれも最終閲覧 2018 年 5 月 4 日)

- 1) BBC (2010) *Portrayal of Lesbian, Gay and Bisexual People on the BBC*. http://downloads.bbc.co.uk/aboutthebbc/insidethebbc/howwework/reports/pdf/diversity_research_300910.pdf
- 2) BBC (2012) *Media portrayal of lesbian, gay and bisexual audiences: Key findings from interviews with LGB organisations and representatives*. http://downloads.bbc.co.uk/diversity/pdf/media_portrayal_lgb_audiences_nov2012.pdf
- 3) Channel 4 360° Diversity Charter <http://www.channel4.com/media/documents/corporate/diversitycharter/Channel4360DiversityCharterFINAL.pdf>
- 4) Civil Service LGBT+ (2017) Why you should volunteer to lead your LGBT network: A beginner's guide to leading an LGBT network. <http://uksra.com/2017/02/02/a-beginners-guide-to-leading-an-lgbt-network/>
- 5) DIAMOND (2016) *GUIDANCE NOTES Version 1.1*. <http://tvresponsibility.com/files/docs/Diamond-Guidance-Notes-FINAL.pdf>
- 6) Ofcom (2011) *Single Equality Scheme 2011-2014*. https://www.ofcom.gov.uk/_data/assets/pdf_file/0032/88394/Single-Equality-Scheme.pdf
- 7) Ofcom (2015) *PSB Diversity Research Summary*. https://www.ofcom.gov.uk/_data/assets/pdf_file/0023/59333/psb_diversity_report.pdf
- 8) Ofcom (2016) *Diversity in broadcasting*. <https://www.ofcom.gov.uk/about-ofcom/latest/media/speeches/2016/diversity-in-broadcasting>
- 9) Ofcom (2017) *Diversity and equal opportunities in television, Monitoring report on the UK broadcasting industry*. https://www.ofcom.gov.uk/_data/assets/pdf_file/0017/106343/diversity-television-report-2017.pdf
- 10) Ofcom (2017) *Diversity and equal opportunities in television - Steps taken by broadcasters to promote equal opportunities*. https://www.ofcom.gov.uk/_data/assets/pdf_file/0019/106354/diversity-report-steps.pdf
- 11) Ofcom (2017) *Ofcom BBC distinctiveness research: Quantitative findings*. https://www.ofcom.gov.uk/_data/assets/pdf_file/0022/104557/bbc-distinctiveness-research.pdf
- 12) Ofcom (2017) *The Ofcom Broadcasting Code*. https://www.ofcom.gov.uk/_data/assets/pdf_file/0005/100103/broadcast-code-april-2017.pdf
- 13) open Democracy UK (2016) *Boris is wrong - LGBT people should oppose Brexit*. <https://www.opendemocracy.net/uk/nigel-wainer/boris-is-wrong-lgbt-people-should-oppose-brexit>
- 14) Stonewall, Katherine Cowan, Gill Valentine (2006) *TUNED OUT The BBC's portrayal of lesbian and gay people*. https://www.stonewall.org.uk/sites/default/files/Tuned_Out_2006.pdf
- 15) The Guardian. <https://www.theguardian.com/international>
- 16) Viacom Viacom in the UK Diversity and Inclusion Strategy. http://www.channel5.com/wp-content/uploads/2017/02/Diversity_Inclusion_Strategy.pdf
- 17) VERCIDA Ofcom Affinity Network. <https://www.vercida.com/uk/features/ofcom-affinity-network>

【研究書および論文】

- 18) Michael Lovelock (2015) *Acceptance, humanity and emotional excess: The politics of queers suffering in Big Brother UK*. *European Journal of Cultural Studies*.
- 19) Paul Venzo, Kristy Hess. (2013) *Honk Against Homophobia: Rethinking Relations Between Media and Sexual Minorities*. *Journal of Homosexuality*.
- 20) Rosalind Gill (2007) *Gender and the Media*. Cambridge, UK: Polity Press.
- 21) Sarah C. Gomillion, Traci A. Giuliano (2011) *The Influence of Media Role Models on Gay, Lesbian, and Bisexual Identity*. *Journal of Homosexuality*.